

福島第一原子力発電所20km圏内海域における魚介類の測定結果

資料3-2

2026年10月1日
東京電力ホールディングス株式会社

I. 港湾外20km圏内モニタリング結果概要（セシウム）

今回のまとめ

- 1 採取日 2026年4月9日 ～ 2026年6月20日
- 2 地点数 11地点
- 3 総検体数 28種196検体（クロソイの検体数：3検体）
- 4 不検出数 195検体（99.5%）

2026年4月～6月に東京電力が実施した福島第一港湾外における魚介類のモニタリングのうち、セシウム濃度が検出された魚介類を以下に示す（セシウムの食品基準値100Bq/kgを超える試料はなかった）。

採取地点	採取日	魚種	全長(cm)	体重 (kg)	セシウム合計 Bq/kg(生)
T-S3	6月17日	ボラ	51.3	1.19	8.9

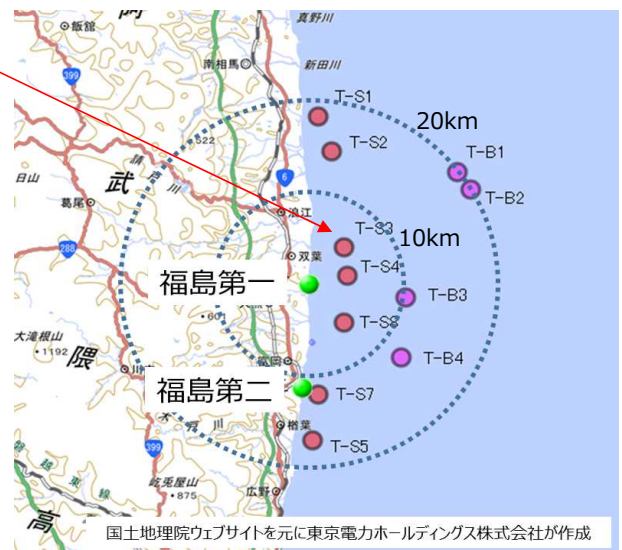


表1 放射性セシウム濃度が100Bq/kgを超えた検体数・割合と不検出の検体数・割合

年度	月	全体数	100Bq/kg 超		検出～100Bq/kg		不検出	
			検体数	%	検体数	%	検体数	%
2011年度	-	3	0	0.0	2	66.7	1	33.3
2012年度	-	1197	389	32.5	654	54.6	154	12.9
2013年度	-	1086	133	12.2	713	65.7	240	22.1
2014年度	-	1104	15	1.4	616	55.8	473	42.8
2015年度	-	1087	3	0.3	501	46.1	583	53.6
2016年度	-	1183	2	0.2	411	34.7	770	65.1
2017年度	-	1270	2	0.2	245	19.3	1023	80.6
2018年度	-	1211	0	0.0	116	9.6	1095	90.4
2019年度	-	1002	0	0.0	62	6.2	940	93.8
2020年度	-	940	0	0.0	54	5.7	886	94.3
2021年度	-	854	0	0.0	31	3.6	823	96.4
2022年度	-	801	0	0.0	19	2.4	782	97.6
2023年度	-	737	0	0.0	12	1.6	725	98.4
2024年度	-	750	0	0.0	9	1.2	741	98.8
2025年度	-	715	0	0.0	5	0.7	710	99.3
2026年度	4月	50	0	0.0	0	0.0	50	100.0
	5月	65	0	0.0	0	0.0	65	100.0
	6月	81	0	0.0	1	1.2	80	98.8
合計		14136	544	-	3451	-	10141	-

図1 測定回数と基準値超え・不検出の割合の経時変化

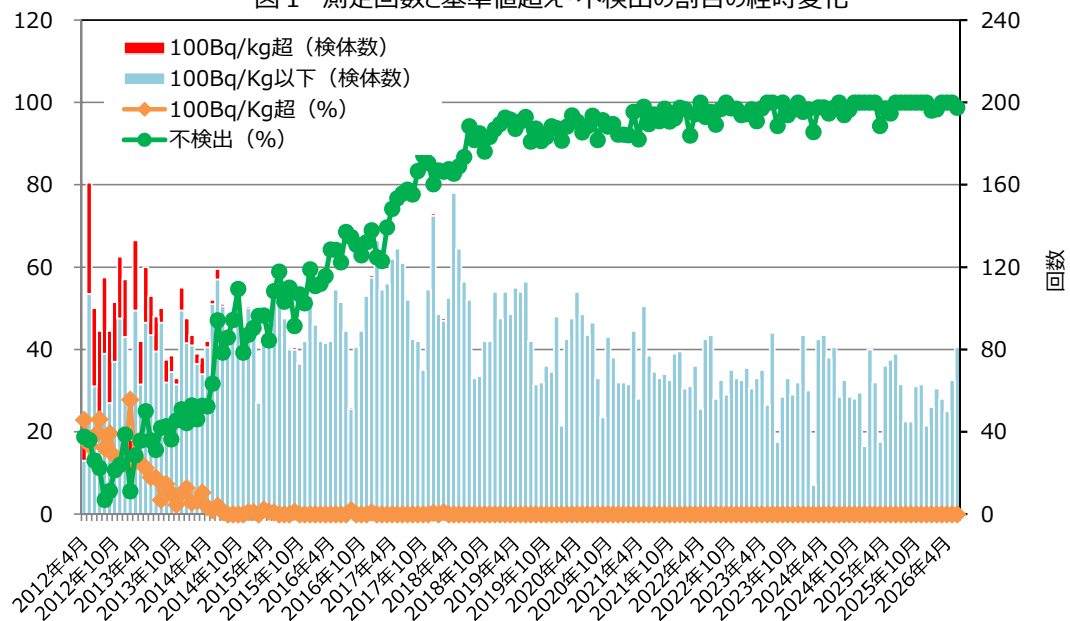


表2 モニタリング実績

- ・魚種数：28種 検体の種類数
- ・2026年4月～2026年6月に採取

分類	魚種名	分類	魚種名
魚類	イシガレイ	魚類	チダイ
	イシダイ		ババガレイ
	カスザメ		ヒラメ
	カナガシラ		ブリ
	ガンゾウビラメ		ホウボウ
	キアンコウ		ホシザメ
	キツネメバル		ボラ
	クロソイ		マアナゴ
	クロダイ		マコガレイ
	コモンカスベ		マサバ
	シログチ		マダイ
	シロメバル		マトウダイ
	スズキ		ムシガレイ
	ソウハチ	甲殻類	ガザミ

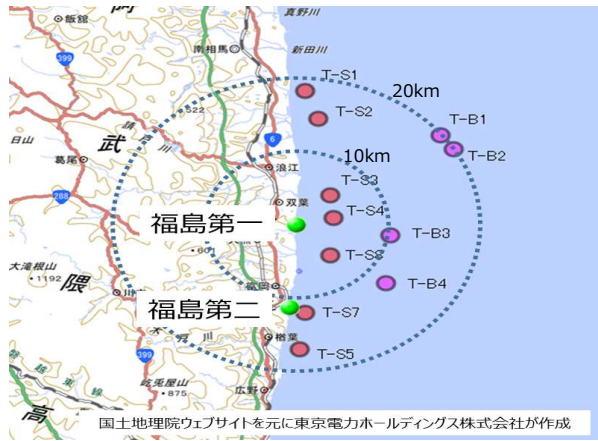
Ⅱ．定点モニタリング結果概要（トリチウム）

(1) 魚の測定結果（トリチウム） 1/2

2025年12月～2026年2月に採取したヒラメ・カレイ類のトリチウム濃度の測定結果を示す。
組織自由水型トリチウム（FWT)の濃度は、採取地点の海水のトリチウム濃度と同程度、有機結合型トリチウム（OBT)はすべて不検出であった。

採取地点		採取日	魚種	全長 (cm)	体重 (kg)	組織自由水型 トリチウム (Bq/L)	有機結合型 トリチウム (Bq/L)	海水(H3) (Bq/L)	期間中における海水の 平均値と幅				
									平均値(採点 値の平均値)	幅			
20 km 圏内北側	T-S1	12月24日	ヒラメ	63.0	2.75	0.12	ND(0.22)	0.090	0.081	ND ～ 0.090			
		1月15日	マコガレイ	41.5	0.70	-	-	ND(0.068)					
				40.4	0.74								
				41.1	0.70								
		2月18日	ヒラメ	56.4	1.79	ND(0.067)	ND(0.23)	ND(0.068)					
	T-S2	12月24日	ヒラメ	47.7	1.03	0.083	ND(0.22)	0.074					
				56.7	2.06								
		1月15日	マコガレイ	51.4	1.39	-	-	0.079					
				39.3	0.63								
				43.5	0.74								
		2月18日	マコガレイ	30.9	0.32	-	-	ND(0.068)					
				38.0	0.54								
				41.4	0.69								
				67.7	3.21						0.57	ND(0.23)	0.22
57.5				1.96									
53.0	1.60												
10 km 圏内	T-S3	1月16日	ヒラメ	52.3	1.32	-	-	0.069	0.09	ND ～ 0.22			
		2月6日	マコガレイ	34.3	0.57	-	-	ND(0.059)					
				34.6	0.46								
		T-S4	12月19日	ヒラメ	55.0	1.61	0.44	ND(0.23)			0.079		
					58.4	1.74							
	57.7				1.69								
	1月16日		ヒラメ	55.5	1.70	0.061	ND(0.20)	0.076					
				52.0	1.47								
		50.8		1.38									
	T-S8	2月6日	ヒラメ	62.8	2.52	ND(0.067)	ND(0.23)	ND(0.059)			0.15	ND(0.26)	0.067
		12月19日	ヒラメ	60.3	2.22	0.15	ND(0.26)	0.067					
				55.3	1.65								
				52.6	1.43								
		1月8日	ヒラメ	63.7	2.56	0.049	ND(0.26)	0.067					
		2月10日	イシガレイ	50.5	1.40	-	-	0.043					
		20 km 圏内南側	T-S5	12月18日	ヒラメ	74.3	4.10	0.085					
	64.2					3.08							
	1月29日			マコガレイ	44.8	1.18	-	-			ND(0.059)		
					39.3	0.69							
33.0					0.48								
2月20日	マコガレイ			42.3	0.82	-	-	0.083					
T-S7	12月18日		ヒラメ	68.7	3.56	0.16	ND(0.28)	0.15					
				52.0	1.28								
				50.5	1.17								
	1月29日		マコガレイ	43.0	1.17	-	-	0.091					
	2月20日		ヒラメ	50.3	1.16	-	-	ND(0.081)					

－：採取中止または試料量不足により分析中止



- ※1 組織自由水型トリチウム（FWT）
- ・魚の体の水分に含まれているトリチウムのこと。
（水として体内（組織内）を移動する）
 - ・測定値は、魚を凍結乾燥して回収した水分に含まれるトリチウムの濃度であり、目標検出限界値は、0.1Bq/L未満。
- ※2 有機結合型トリチウム（OBT）
- ・魚の体の細胞組織（有機物）に含まれるトリチウムのこと。（細胞組織と結合したトリチウム）
 - ・測定値は、乾燥させた魚を燃焼させたときに発生する水分に含まれるトリチウムの濃度であり、目標検出限界値は、0.5Bq/L。

【参考】通常の海水には、0.1Bq/Lを若干下回る程度のトリチウムが含まれている。

* 目標検出限界値は、総合モニタリング計画において、関係機関と整合するように設定している。

(1) 魚の測定結果（トリチウム） 2/2

2025年12月～2026年2月に採取したヒラメ・カレイ類のトリチウム濃度の測定結果を示す。

組織自由水型トリチウム（FWT）の濃度は、採取地点の海水のトリチウム濃度と同程度、有機結合型トリチウム（OBT）はすべて不検出であった。

採取地点		採取日	魚種	全長 (cm)	体重 (kg)	組織自由水型 トリチウム (Bq/L)	有機結合型 トリチウム (Bq/L)	海水(H3) (Bq/L)	期間中における海水の 平均値と幅	
									平均値(検出 値の平均値)	幅
10 km～ 20 km 沖合	T-B1	12月分	－	－	－	－	－	－	0.098	ND ～ 0.12
		1月分	－	－	－	－	－	－		
		2月17日	ヒラメ	87.7	8.34	0.085	ND(0.29)	0.088		
	T-B2	12月分	－	－	－	－	－	－		
		1月分	－	－	－	－	－	－		
		2月17日	ヒラメ	67.3	3.91	ND(0.073)	ND(0.28)	0.12		
	T-B3	12月分	－	－	－	－	－	－		
		1月24日	ヒラメ	59.4	2.36	ND(0.081)	ND(0.29)	ND(0.077)		
				45.7	0.89					
				52.4	1.67					
		3月3日 (2月分)	ヒラメ	63.8	3.62	0.089	ND(0.28)	ND(0.077)		
				53.4	1.65					
				51.1	1.49					
		T-B4	12月分	－	－	－	－	－		
	1月24日		ヒラメ	40.2	0.61	-	-	ND(0.082)		
				39.9	0.68					
				29.5	0.24					
				30.2	0.25					
3月3日 (2月分)	ムシガレイ		36.2	0.56	-	-	0.085			
			30.2	0.29						
		31.3	0.39							

—：採取中止または試料量不足により分析中止



※1 組織自由水型トリチウム（FWT）

- ・魚の体の水分に含まれているトリチウムのこと。
（水として体内（組織内）を移動する）
- ・測定値は、魚を凍結乾燥して回収した水分に含まれるトリチウムの濃度であり、目標検出限界値は、0.1Bq/L未満。

※2 有機結合型トリチウム（OBT）

- ・魚の体の細胞組織（有機物）に含まれるトリチウムのこと。（細胞組織と結合したトリチウム）
- ・測定値は、乾燥させた魚を燃焼させたときに発生する水分に含まれるトリチウムの濃度であり、目標検出限界値は、0.5Bq/L。

【参考】通常の海水には、0.1Bq/Lを若干下回る程度のトリチウムが含まれている。

* 目標検出限界値は、総合モニタリング計画において、関係機関と整合するように設定している。

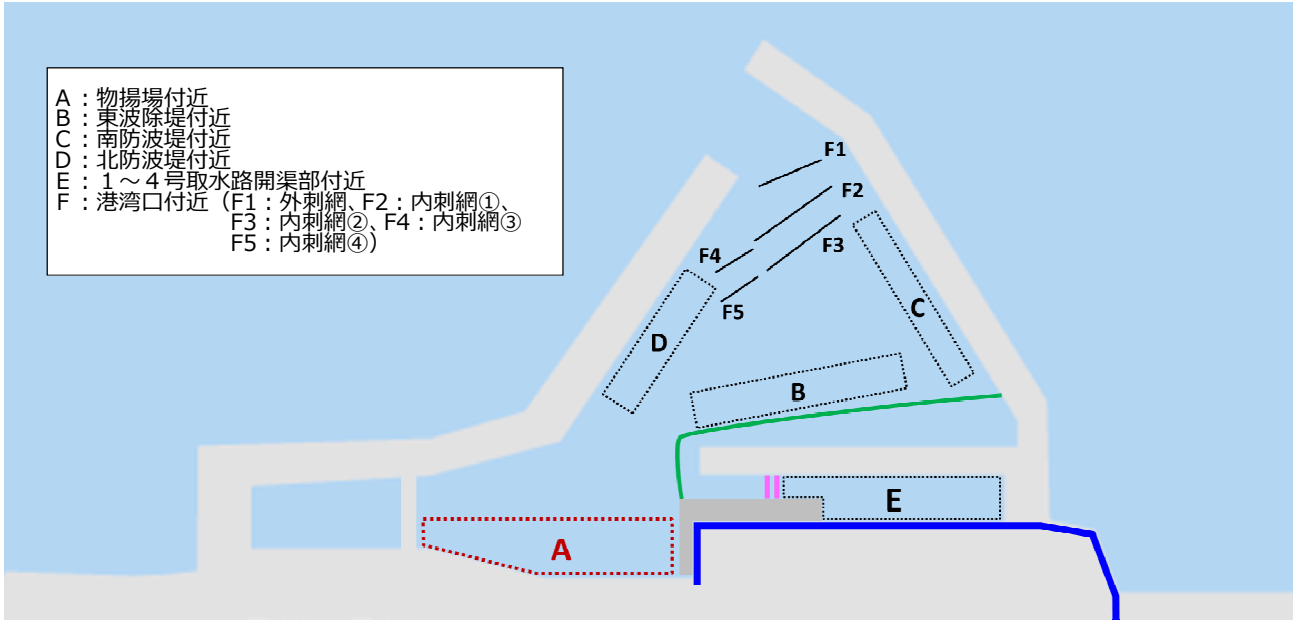
Ⅲ. 福島第一原子力発電所港湾魚類捕獲状況（速報）

A. 物揚場付近（網掛けは前回報告からの追加データ）

捕獲日	捕獲方法	捕獲魚類数 (匹)	試料名	Cs濃度 (Bq/kg (生))			全長 (cm)	体重 (kg)
				Cs-134	Cs-137	Cs合計		
2022年度	はえ縄漁,かご網漁	17	クロソイ	ND(2.1)	70	70	31.5	0.442
2023年度	底刺し網漁,かご網漁	184	ウナギ	7.9	440	447.9	55.0	0.194
2024年度	底刺し網漁,かご網漁	24	アイナメ	ND(2.1)	28	28	38.5	0.750
2025年度	底刺し網漁,かご網漁,アナゴ筒漁	46	マアナゴ	ND(1.9)	30	30	73.0	0.540
2026/4/2	かご網漁	1	アイナメ	ND(2.5)	21	21	39.0	0.330
2026/4/3	底刺し網漁	1	マゴチ	ND(2.2)	ND(2.3)	ND	55.0	1.230
	底刺し網漁	1	マコガレイ	ND(2.1)	15	15	43.0	0.975
2026/4/10	底刺し網漁	1	ムラソイ	ND(2.4)	9.7	9.7	32.5	0.780
2026/4/21	底刺し網漁	1	ボラ	ND(2.8)	3.5	3.5	45.0	0.830
2026/5/13	アナゴ筒漁	1	マアナゴ	ND(3.3)	20	20	64.0	0.430
2026/5/14	かご網漁	1	マアナゴ	ND(2.7)	36	36	70.5	0.605
2026/5/21	かご網漁	1	マダコ	ND(2.6)	18	18	60.7	0.685
2026/5/22	かご網漁	1	マアナゴ	ND(7.2)	13	13	48.3	0.185
2026/5/28	アナゴ筒漁	1	マアナゴ	ND(3.3)	16	16	74.5	0.755
2026/5/29	底刺し網漁	1	クロソイ	試料損傷のため測定対象なし				
2026/6/5	底刺し網漁	1	マコガレイ	ND(3.2)	8.0	8.0	38.2	0.715
2026/6/12	底刺し網漁	1	スズキ	ND(2.9)	ND(2.9)	ND	60.5	2.245
	底刺し網漁	1	ヒラメ	ND(3.0)	8.6	8.6	43.0	0.800
2026/6/19	底刺し網漁	1	ウミタナゴ	ND(4.1)	ND(3.1)	ND	28.5	0.450
	底刺し網漁	1	マルタ	ND(3.0)	3.8	3.8	53.2	1.320
	底刺し網漁	1	ウミタナゴ	ND(4.0)	7.2	7.2	27.0	0.395
	底刺し網漁	1	ウミタナゴ	ND(4.4)	4.2	4.2	25.2	0.325
	底刺し網漁	1	ウミタナゴ	ND(3.8)	ND(4.1)	ND	25.6	0.335
	底刺し網漁	1	ウミタナゴ	ND(5.9)	8.8	8.8	24.7	0.265
	底刺し網漁	1	ニベ	試料損傷のため測定対象なし				
	底刺し網漁	1	ウミタナゴ	試料損傷のため測定対象なし				
2026/6/19	底刺し網漁	1	オウゴンムラソイ	ND(5.1)	15	15	23.8	0.295
	かご網漁	1	マアナゴ	ND(2.9)	14	14	70.3	0.620
	かご網漁	1	マアナゴ	ND(3.4)	25	25	68.8	0.560
	かご網漁	1	マダコ	ND(2.1)	ND(2.1)	ND	67.7	1.135
2026/6/23	底刺し網漁	1	ヒラメ	ND(2.4)	7.2	7.2	74.5	3.950
	底刺し網漁	1	マコガレイ	ND(2.6)	10	10	38.0	0.850
2026/6/25	アナゴ筒	1	マアナゴ	ND(2.4)	15	15	72.2	0.590

※NDは検出限界値未満、括弧内は検出限界値

魚類捕獲場所



A. 物揚場付近

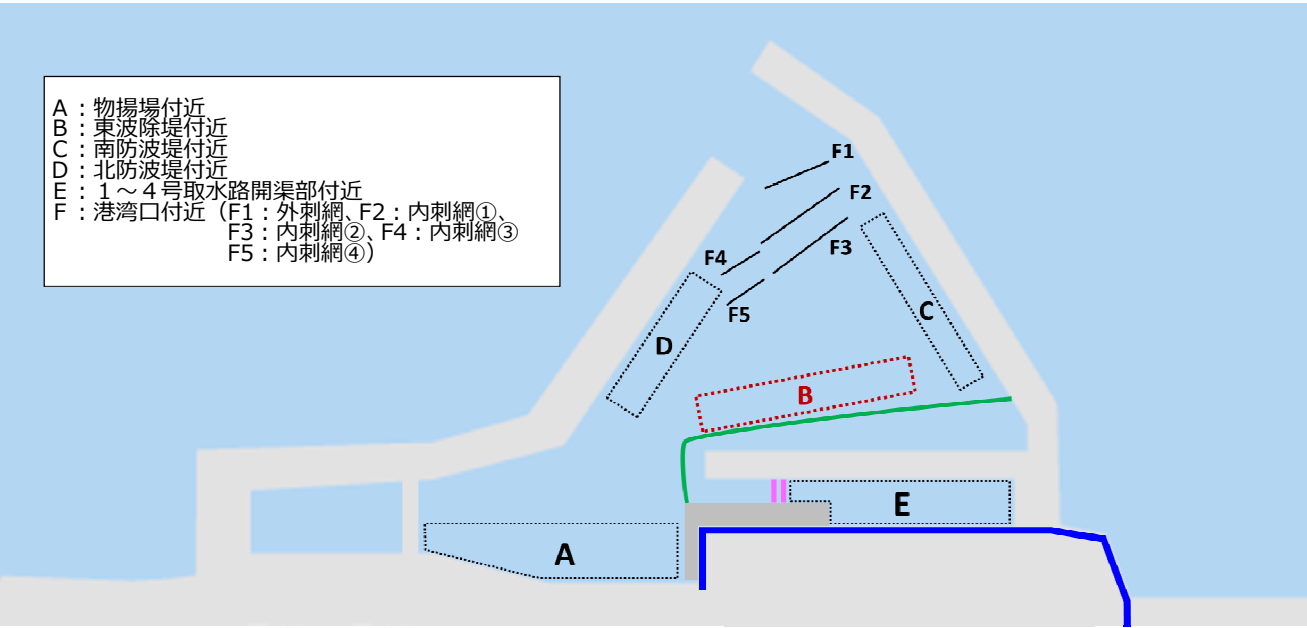
- ・移動防止のため網は常時設置しているが、試料採取のため、刺し網を揚げる回数を週3回としている。
- ・底刺し網(カレイ網(4.5寸目)、メバル網(2.5寸目)、多重網(2.5寸目,4.5寸目))：3回/週、かご網：1回/週、アナゴ筒：1回/2週

B. 東波除堤付近（網掛けは前回報告からの追加データ）

捕獲日	捕獲方法	捕獲魚類数 (匹)	試料名	Cs濃度 (B q / k g (生))			全長 (cm)	体重 (kg)
				Cs-134	Cs-137	C s 合計		
2022年度	底刺し網漁,かご網漁,はえ縄	451	ムラソイ	50	1,600	1,650	31.0	0.638
2023年度	底刺し網漁,かご網漁,はえ縄	394	クロソイ	16	750	766	29.0	0.326
2024年度	底刺し網漁	156	スズキ	ND(2.4)	24	24	69.0	2.595
2025年度	底刺し網漁	68	アイナメ	ND(2.2)	22	22	34.0	0.520
2026/4/10	底刺し網漁	1	マコガレイ	ND(1.9)	3.8	3.8	48.1	1.205
2026年5月		0	試料採取無し					
2026/6/2	底刺し網漁	1	クロウシノシタ	ND(4.0)	ND(3.4)	ND	33.8	0.180
2026/6/9	底刺し網漁	1	ボラ	ND(3.2)	ND(2.7)	ND	71.8	3.560
	底刺し網漁	1	ボラ	ND(2.6)	ND(2.5)	ND	71.0	2.735
2026/6/19	底刺し網漁	1	ヒラメ	ND(5.9)	11	11	28.0	0.220
	底刺し網漁	1	クロダイ	ND(3.0)	2.6	2.6	23.0	0.160

※NDは検出限界値未満、括弧内は検出限界値

魚類捕獲場所



B. 東波除堤付近

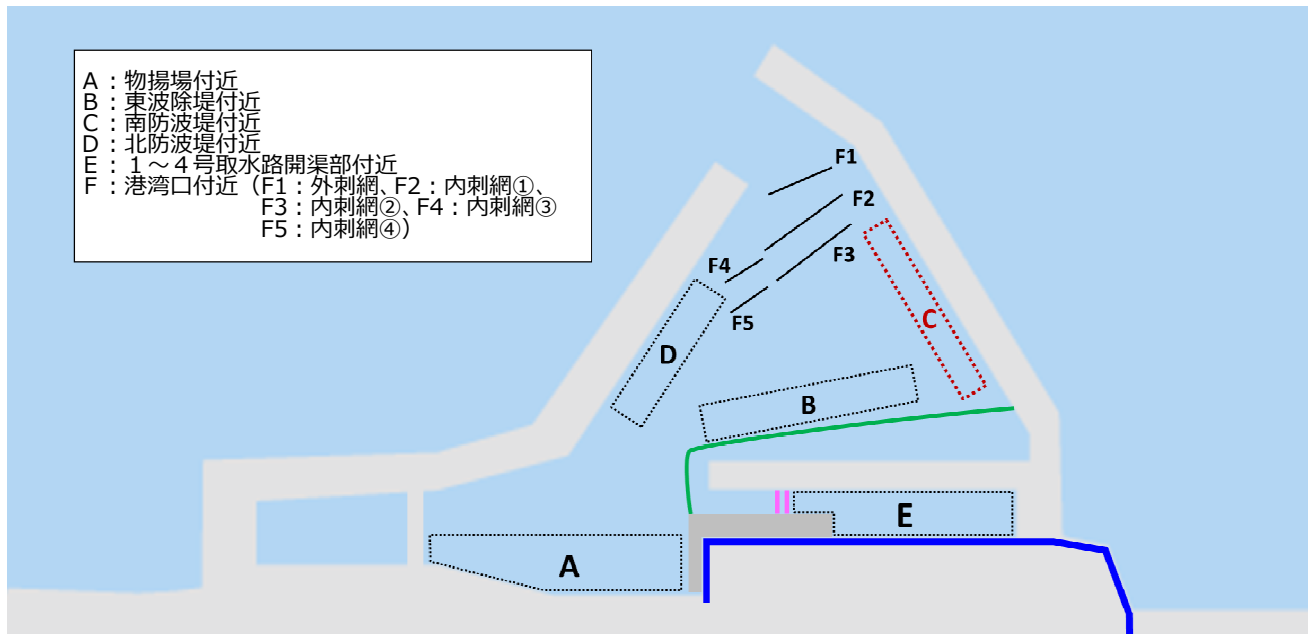
- ・移動防止のため網は常時設置しているが、試料採取のため、刺し網を揚げる回数を週3回としている。
- ・底刺し網(カレイ網(4.5寸目)、メバル網(2.5寸目)、多重網(2.5寸目,4.5寸目))：3回/週

C. 南防波堤付近（網掛けは前回報告からの追加データ）

捕獲日	捕獲方法	捕獲魚類数 (匹)	試料名	Cs濃度 (Bq/kg (生))			全長 (cm)	体重 (kg)
				Cs-134	Cs-137	Cs合計		
2022年度	底刺し網漁, かご網漁	164	タケノコメバル	ND(2.5)	54	54	41.5	1.122
2023年度	底刺し網漁, かご網漁	115	ボラ	ND(3.4)	150	150	37.5	0.506
2024年度	底刺し網漁, かご網漁	44	ムラソイ	ND(3.1)	46	46	24.5	0.270
2025年度	底刺し網漁	2	ボラ	試料損傷のため測定対象なし				
2026/4/17	かご網漁	1	マアナゴ	ND(3.7)	31	31	81.5	1.020
	かご網漁	1	エゾイソアイナメ	重量不足のため測定対象なし				
2026年5月		0	試料採取無し					
2026年6月		0	試料採取無し					

※NDは検出限界値未満、括弧内は検出限界値

魚類捕獲場所



C. 南防波堤付近

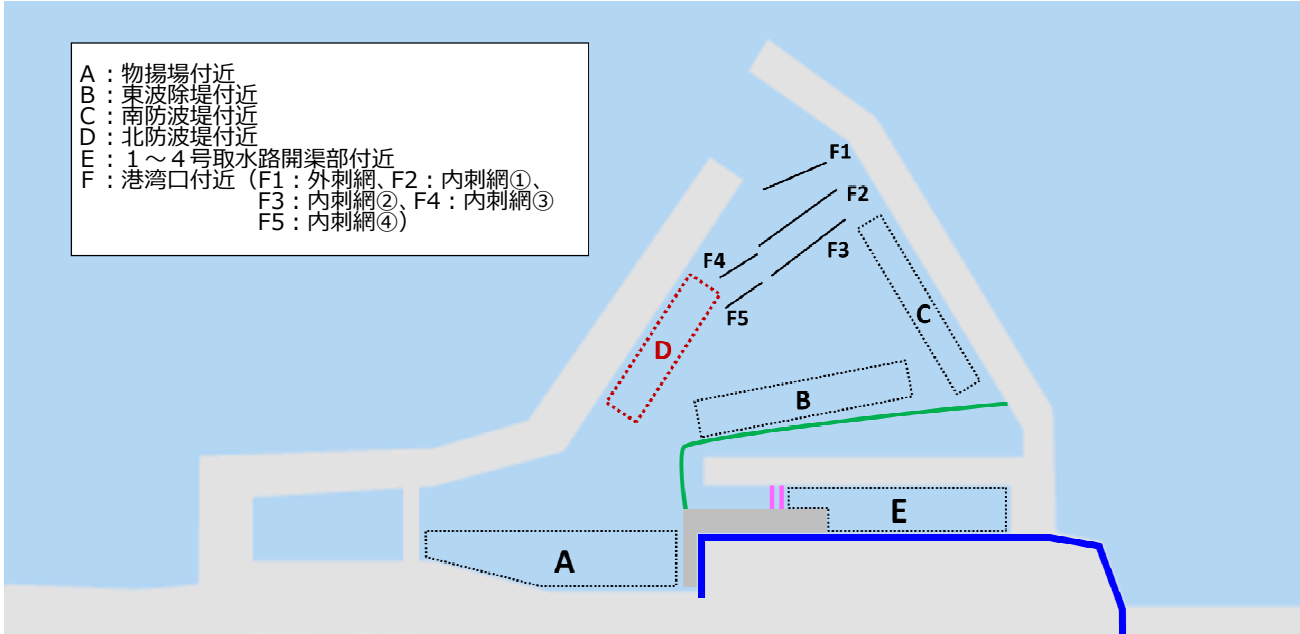
- ・移動防止のため網は常時設置しているが、試料採取のため、刺し網を揚げる回数を週3回としている。
- ・底刺し網(カレイ網(4.5寸目)): 3回/週、かご網: 1回/週

D. 北防波堤付近（網掛けは前回報告からの追加データ）

捕獲日	捕獲方法	捕獲魚類数 (匹)	試料名	Cs濃度 (Bq/kg (生))			全長 (cm)	体重 (kg)
				Cs-134	Cs-137	Cs合計		
2022年度	底刺し網漁,かご網漁,はえ縄	348	マコガレイ	9.3	430	439.3	38.0	0.610
2023年度	底刺し網漁,かご網漁,はえ縄	310	スズキ	9.4	470	479.4	42.5	0.630
2024年度	底刺し網漁,かご網漁,はえ縄	111	ムラソイ	ND(2.6)	32	32	25.5	0.350
2025年度	刺し網漁,かご網漁,はえ縄,アナゴ同	38	エゾイソアイナメ	ND(4.1)	64	64	24.6	0.120
2026/4/17	底刺し網漁	1	クロソイ	ND(2.4)	130	130	46.7	1.920
	底刺し網漁	1	マルタ	ND(1.9)	4.3	4.3	58.0	1.295
	底刺し網漁	1	アイナメ	ND(3.6)	18	18	36.0	0.485
2026/5/15	底刺し網漁	1	クロソイ	ND(2.3)	52	52	38.7	0.750
2026/5/21	かご網漁	1	ゴウカ	ND(3.4)	ND(3.9)	ND	23.7	0.215
	かご網漁	1	エゾイソアイナメ	ND(4.7)	21	21	27.2	0.200
2026/5/25	底刺し網漁	1	マゴチ	試料損傷のため測定対象なし				
2026年6月		0	試料採取無し					

※NDは検出限界値未満、括弧内は検出限界値

魚類捕獲場所



D. 北防波堤付近

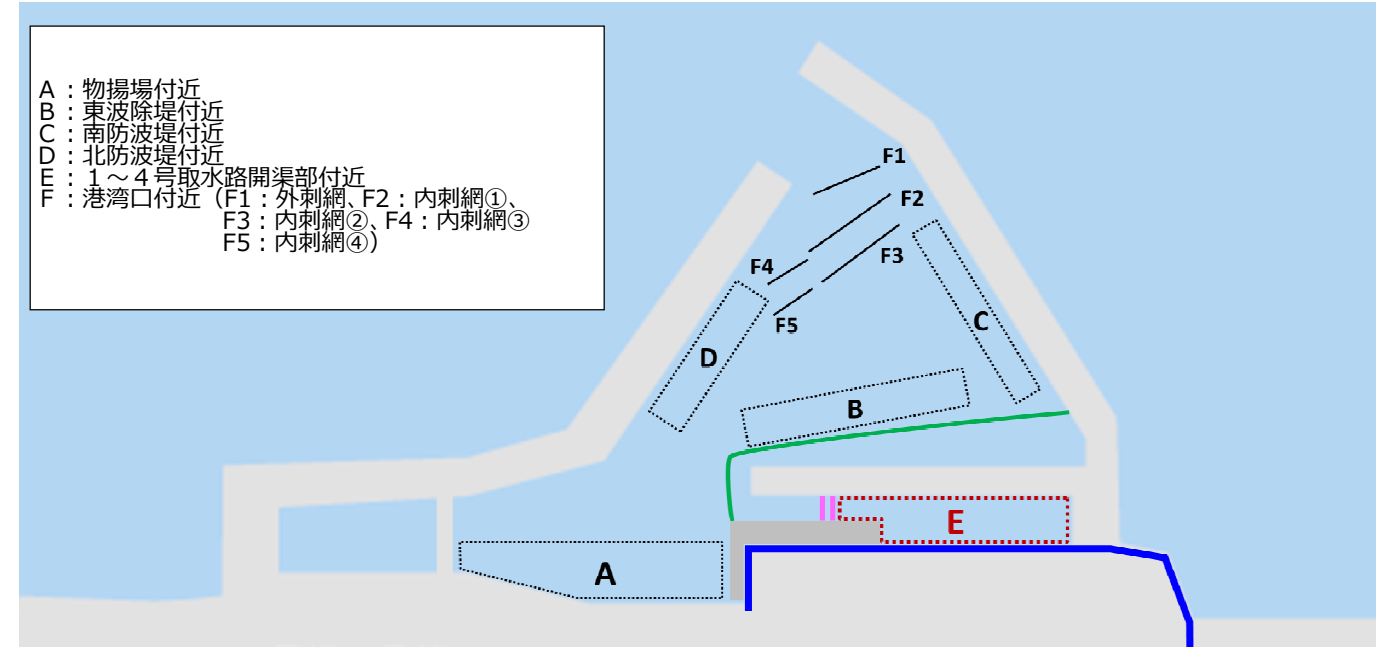
- ・移動防止のため網は常時設置しているが、試料採取のため、刺し網を揚げる回数を週3回としている。
- ・底刺し網(カレイ網(4.5寸目))：3回/週、かご網：1回/週、はえ縄：1回/2週

E. 1～4号取水路開渠部内（網掛けは前回報告からの追加データ）

捕獲日	捕獲方法	捕獲魚類数 (匹)	試料名	Cs濃度 (Bq/kg (生))			全長 (cm)	体重 (kg)
				Cs-134	Cs-137	Cs合計		
2022年度	かご網漁	13	ウナギ	48	1,700	1,748	71.0	0.618
2023年度	かご網漁	21	クロソイ	380	18,000	18,380	30.5	0.384
2024年度	かご網漁	1	マハゼ	重量不足のため測定対象なし				
2025年度		0	試料採取無し					
2026年4月		0	試料採取無し					
2026/5/21	かご網漁	1	アイナメ	7.8	800	807.8	40.0	0.720
	かご網漁	1	アイナメ	4.5	560	564.5	35.8	0.575
2026年6月		0	試料採取無し					

※NDは検出限界値未満、括弧内は検出限界値

魚類捕獲場所



E. 1～4号取水路開渠部内

- ・試料採取を目的に網等を設置しているが、港湾とは仕切られているため陸上から実施できるかご網とアナゴ筒を採用。
- ・かご網：1回/週、アナゴ筒：1回/2週（仕掛けは常時設置）

- ※ 2026年5月、1-4号取水路開渠部内で2年ぶりに魚（アイナメ）が捕獲され、高い濃度のセシウムが検出。
- ※ 1-4号取水路開渠は、2021年10月に5cm角の金属網を開渠出入口に二重で設置（上図 ）。その後、2023年9月に金属網を2cm角に微細化しており、開渠内で成長した魚が開渠外へ移動することを防いでいる。

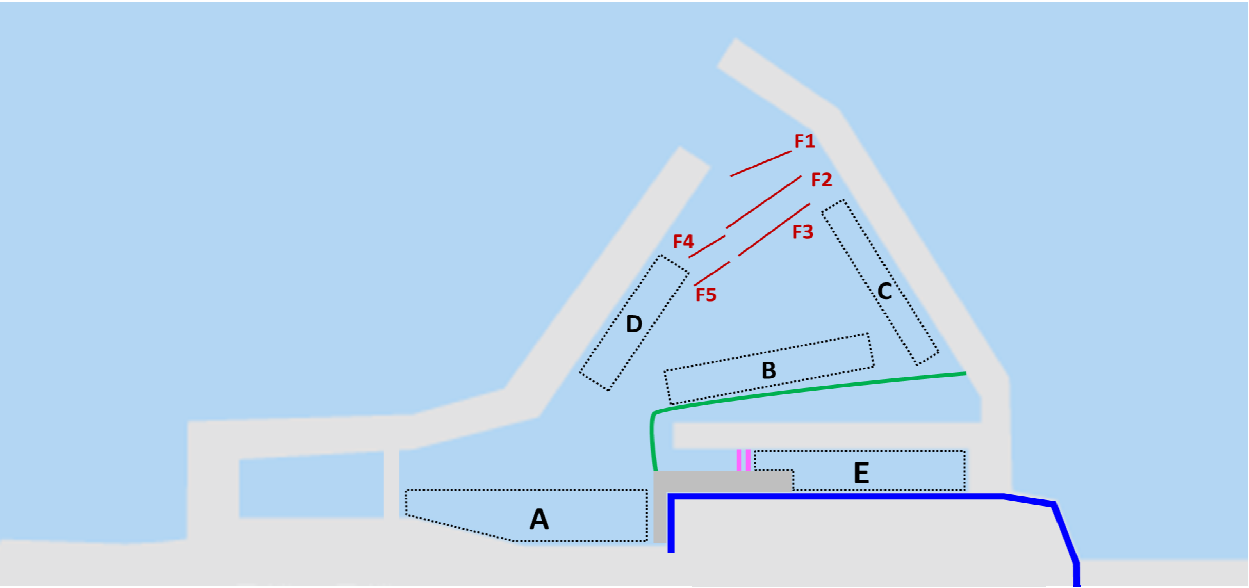
F. 港湾口付近（網掛けは前回報告からの追加データ）

捕獲日	捕獲方法	捕獲魚類数 (匹)	試料名	Cs濃度 (Bq/kg (生))			全長 (cm)	体重 (kg)
				Cs-134	Cs-137	Cs合計		
2022年度	底刺し網漁(F)	331	ムラソイ	4.2	180	184.2	36.0	0.936
2023年度	底刺し網漁(F)	250	マコガレイ	20	890	910	39.5	0.558
2024年度	底刺し網漁(F)	94	マコガレイ	ND(2.3)	47	47	38.0	0.500
2025年度	底刺し網漁(F)	91	クロソイ	ND(2.8)	85	85	29.9	0.475
2026/4/15	底刺し網漁(F2)	1	ヒラメ	ND(1.8)	8.1	8.1	59.6	2.390
	底刺し網漁(F3)	1	クロソイ	ND(2.2)	ND(2.3)	ND	45.8	1.720
2026/4/22	底刺し網漁(F1)	1	スズキ	試料損傷のため測定対象なし				
	底刺し網漁(F3)	1	クロソイ	試料損傷のため測定対象なし				
	底刺し網漁(F3)	1	クロソイ	試料損傷のため測定対象なし				
2026/4/28	底刺し網漁(F1)	1	スズキ	ND(3.2)	ND(2.9)	ND	66.2	2.210
	底刺し網漁(F1)	1	スズキ	試料損傷のため測定対象なし				
	底刺し網漁(F3)	1	ムラソイ	ND(6.6)	8.6	8.6	24.6	0.250
	底刺し網漁(F3)	1	エゾイソアイナメ	試料損傷のため測定対象なし				
	底刺し網漁(F4)	1	クロソイ	ND(2.3)	36	36	54.5	3.190
	底刺し網漁(F4)	1	コノシロ	試料損傷のため測定対象なし				
	底刺し網漁(F5)	1	スズキ	試料損傷のため測定対象なし				
	底刺し網漁(F1)	1	クロソイ	ND(2.1)	ND(2.4)	ND	49.8	1.825
2026/5/20	底刺し網漁(F1)	1	クロソイ	ND(2.1)	ND(2.4)	ND	49.8	1.825
2026/5/27	底刺し網漁(F5)	1	マコガレイ	試料損傷のため測定対象なし				
2026/6/17	底刺し網漁(F1)	1	クロダイ	ND(3.5)	ND(2.9)	ND	43.5	1.060
	底刺し網漁(F1)	1	スズキ	試料損傷のため測定対象なし				
	底刺し網漁(F1)	1	カンパチ	試料損傷のため測定対象なし				
2026/6/25	底刺し網漁(F1)	1	イシダイ	ND(3.4)	2.8	2.8	34.5	0.755

※NDは検出限界値未満、括弧内は検出限界値

捕獲魚類数合計	約 10,160	(2012年度に捕獲した829匹を含む)
---------	----------	----------------------

魚類捕獲場所



F. 港湾口付近

- ・主に港湾内外の魚の移動防止を目的に網を設置しているため、大型船舶航行時以外は常時設置とし、網を揚げる頻度も週1回としている。
- ・底刺し網(外刺網：スズキ網(4.5寸目)1枚、内刺網：カレイ網(4.5寸目)2枚、メバル網(2.5寸目)2枚)：1回/週。

IV. 港湾魚類対策の概要

1. 目的

福島県で行われている漁業や、モニタリングで捕獲される魚介類から高濃度のセシウムが検出されることによって、国内外の消費者に不安を与え、漁業の復興を妨げることを無いうに、港湾の環境改善による魚介類の汚染防止、魚介類の移動防止・捕獲、モニタリングなど港湾魚類対策を継続して実施している。

2. 対策メニュー

港湾の環境改善（汚染防止）	セシウム濃度の高い魚の発生防止のため、海底土被覆、K排水路の水質改善（フェーシング、がれき撤去、浄化材設置、清掃等）などに取り組んでいる。
魚類の移動防止・捕獲	港湾内の魚類が港湾外に移動するのを防止するため、魚類移動防止網（東波除堤、1-4号機取水路開渠出口等）の設置や港湾での刺し網、かご網等による捕獲に取り組んでいる。
モニタリング	港湾の水質改善の効果や魚類の状況を確認するため、海水中放射性物質濃度や魚類のセシウム濃度のモニタリングに取り組んでいる。

3. 魚類の移動防止・捕獲の強化

これまで取り組んできた港湾魚類対策の進捗により、2024年4月以降、港湾内で捕獲される魚のセシウム濃度は低下している。

ただ、昨年11月にセシウム濃度85ベクレル/kg、本年1月に81ベクレル/kgの魚類が港湾内で捕獲。港湾の環境改善については、水質は改善しているものの、対策の実施・効果の発現には引き続き時間を要することから、機動的な対策として、港湾内の成魚の生息を抑制する観点も含め、港湾内から港湾外への魚類の移動防止・捕獲の取り組み強化が必要。

このため、先般（2026年2月18日）、相馬双葉漁業協同組合にご相談を実施。頂いたご助言を踏まえ、強化策を検討・実施していく。

<相馬双葉漁業協同組合と港湾魚類対策の強化のご相談結果>

- ・刺し網は、魚群探知機で確認して魚がいる場所や防波堤沿いなどに仕掛ける。位置を時々変える。
- ・かご網も同様に、魚群探知機を活用し設置場所を設定。かご網内の餌は、筒に入れるのではなく、餌を刺してそのまま入れる。位置も時々変える。
- ・はえ縄を仕掛ける時間帯は、魚の動き出す夜明け頃で、仕掛けてから2～3時間程度で引上げる。防波堤沿いはやってみる価値がある。
- ・投網をするよりも、かご網を増やす方が効果的。

具体的には、2026年1月より実施している対策に加えて、以下の通り、調査も活用しながら、積極的な魚類の捕獲に取り組んでいく。

- 刺し網、かご網等の漁獲を増やすため、魚群探知機を活用し、魚が現れやすい場所を選んで刺し網やかご網を設置する取り組みを行い、魚類捕獲の強化を図る。
- 漁獲の少ないはえ縄の運用方法の改善、かご網の追加、新しい手法を用いた調査、捕獲（集魚灯の活用、クロソイの胃の内容物調査など）の検討などに取り組み、継続して魚類捕獲の強化を図る。

2026年4月には港湾内で130Bq/kgの魚が捕獲されており、引き続き様々な工夫、改善を重ねながら港湾魚類対策を図っていく。

V. 福島第一原子力発電所港湾魚類対策（実施状況と強化の内容）



※2026.1より追加策①～③、2026.2から追加策④・⑤に取り組み、港湾魚類対策を強化

1. 魚の移動防止、捕獲

○港湾口底刺し網の実施状況（凡例 ）

- 5地点で船舶の通行時及び週1回実施（2022.2.21から追加）
- 外網：スズキ網（目合い4.5寸）
 - 2026.1より網の高さを見直し（4m→8m）、海面付近の移動防止を強化（追加策①）
 - 設置状況の写真撮影を2026.2.25に実施したが、海況が悪く鮮明に映らなかったため、今後海況の良い時に再度実施予定
- 内網①、④：カレイ網（目合い4.5寸）、内網②、③：メバル網（目合い2.5寸）
- 7.29に網の写真撮影を再度実施。波は静かであったが透明度が低く、網の設置状況が写る状況ではなかった



7.29 調査時の港湾の状況



海中の透明度の状況（物揚げ場支柱）

○港湾内底刺し網の実施状況（凡例 : 集魚灯、 : 多重網 7地点：3回/週）

- 2022.4より1地点、2024.4より4地点に集魚灯を設置
- 2026.1より刺し網設置場所を1地点追加し、1-4開渠出口付近の魚類捕獲を強化（追加策②）
- 魚群探知機を活用した刺し網設置場所の選定を継続中（追加策④）
 - 北防波堤から港湾口に向けて魚群探知機による確認を行った結果、港湾口に向けて水深が深くなる様子を確認。また、画面上に魚影らしきものを確認。引き続き、地形や魚影などデータの収集・確認を実施し、

有効な刺し網設置場所の検討を行う。加えて、現状の魚群探知機の活用がどの程度可能かについても検討していく。

- ・ 魚群探知機による調査は継続しているが、セシウム濃度の高いクロソイの捕獲を踏まえ、北防波堤付近の地形変化が見られるエリアにおいて、設置済みのかご網を一時的に移設するとともに、2026.6.19 から刺し網（2 網）を移設した。（追加策②③）
- ・ さらに、1-4 開渠出口周辺の刺し網の配置を見直し、北防波堤の刺し網と連携して魚の捕獲を強化（追加策②）
- ・ 集魚灯の活用検討として、2026.6.9 に物揚げ場において投光器による刺し網周辺の海面照射試験を実施したが、漁獲は確認されなかった。一方、刺し網に取り付けて水中に設置している集魚灯について、複数をまとめて設置することで光量を増加させる取り組みを 2026.6.5 から開始し、2026.7.14 までに全ての刺し網へ設置した（取付位置：網底部）。（追加策⑤）
- ・ 8 月 24 日より、LED を複数搭載した集魚灯を追加。

従来の集魚灯

発光色	青（点滅）
発光時間	約1,000時間
発光間隔	約1秒
本体寸法	全長80mm×脚径21mm
本体重量	37g



新しい集魚灯

発光色	上下青・左右緑
発光時間	約4,000時間
発光間隔	約1秒
本体寸法	全長80mm×脚径22mm
本体重量	40g



有限会社丸新商店 HP より引用

○港湾内かご網の実施状況（凡例 ：かご網（27 個）、：大型かご網（1 個） 1 回／週）

- ・ 2024.11.21 より、集魚灯を設置
- ・ 設置エリアを限定せず、かご網の設置場所を柔軟に変えながら実施し、魚類捕獲を強化（追加策③）
- ・ 魚群探知機を活用したかご網設置場所の検討を継続中（追加策④）
- ・ 2026.3.11 より餌の投入方法を変更〔魚体を直接かご内に投入〕（追加策④）
- ・ 2026.4.16 より物揚げ場周辺にかご網 5 個を追加（追加策⑤）
- ・ 北防波堤沿いへの刺し網設置に伴い、北防波堤付近のかご網を港湾中央付近に移動して実施中



使用しているかご網（もんどり）

○港湾内はえ縄及びアナゴ筒の実施状況（凡例 ：はえ縄、：アナゴ筒（12 個） 1 回／2 週）

- ・ 2022.7.28 よりはえ縄を設置（1 地点）
- ・ 2025.4.24 よりアナゴ筒を設置（12 地点）
- ・ 2026.3.11 よりはえ縄の運用を、早朝に仕掛けて約 3 時間後に引き上げる運用に変更（追加策⑤）
- ・ 新しい手法を用いた調査、捕獲（集魚灯活用）については検討を継続中（追加策⑤）
- ・ 2026.4.8 にエビを餌として採捕を実施したが、漁獲が無かったため、イカに変えて実施中
- ・ 引き続き、餌についても検討を行う（追加策⑤）
- ・ はえ縄の餌がすぐに無くなっているため、クロソイなどの大型魚がかかる前に小型魚によって食べられているものと推定。エサが長持ちすることをねらって、2026.7.1 より 3 種類の疑似餌で試運用を実施中（追加策⑤）
- ・ はえ縄の餌については、継続して検討中
- ・ 釣りの試験実施を準備中

○魚類移動防止網の設置箇所（凡例 : 南防波堤付近、 : 東波除堤付近）

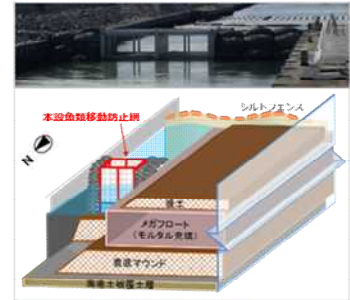
- ・ 東波除堤魚類移動防止網をリプレイス（2024.3.4 完了）

○シルトフェンスの設置箇所（凡例 : 物揚場、 : 1-4 号開渠内）

○港湾口ブロックフェンスの設置箇所（凡例 ）

○1-4 号開渠魚類移動防止網の設置箇所（凡例 ）

- ・2021.10、開渠出口の魚類移動防止網（5 cm角）を二重に設置
- ・2023.9、二重化された網目を 5 cm角から 2 cm角に微細化



2. 港湾の環境改善

- ・ 1 ～ 4 号機取水路開渠の再被覆工事（2024.6.13 完了）
- ・ K 排水路の水質改善（排水路清掃、浄化材設置、1-4 号機周辺のカレキ撤去、フェーシング等）を継続して実施中

3. モニタリングの充実

- ・ 従来よりも小さい魚や損傷魚のうち、状態の良い魚の分析を開始（2025.2 より）
- ・ 港湾内の海水・海底土をサンプリング（2025.11.19）
* 海水については検出下限値を下げて分析実施
- ・ 2026.4.17 に捕獲したクロソイ（130Bq/kg）は、専門機関に年齢査定を依頼した結果、5 歳であった。
また、胃の中を確認した結果、内容物はなかった（胃の中は空だった）。
新たに、2026.5.15 に捕獲したクロソイ（52Bq/kg）の胃の中を確認したが、空だった。これまで港湾内で捕獲したクロソイ 5 尾について調査した結果は、4 尾が空、残る 1 尾も消化が進んだ状態で何を食べたかの判断は困難だった。
- ・ 2026.5.21 に開渠で捕獲したアイナメについても、胃の内容物を確認。



2026.5.21 に捕獲したアイナメ 1 の胃
（海藻のようなものと魚の小骨、小石を確認）



2026.5.21 に捕獲したアイナメ 2 の胃
（内容物無）